

令和6年度(2024年度)全国学力・学習状況調査の結果について

塩尻市教育委員会

1 趣 旨

本年4月18日(木)に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」について、国及び県の調査結果の公表があり、これに基づき、本市の結果を分析しましたので、その概要をお知らせするものです。

2 調査の概要

(1) 調査の目的(文部科学省)

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年と実施した学校数・児童生徒(小中学生)の人数

対象学年	対象学校数	学校数(実施率)	実施人数
小学校第6学年 (檜川小中学校前期課程を含む)	9	9(100%)	505人
中学校第3学年 (両小野中学校及び檜川小中学校後期課程を含む)	6	6(100%)	449人

(3) 調査の事項及び手法

ア 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査(知識と活用を一体的に問う問題、記述式の問題を一定割合で導入)

小学校調査は、国語及び算数、中学校調査は、国語、数学に関する問題

② 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

イ 学校に関する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

3 児童生徒に対する調査結果

(1) 教科に関する調査結果の全体概要

ア 小学校第6学年は、国語、算数それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

イ 中学校第3学年は、国語、数学それぞれにおいて、全国及び県平均正答率を上回る結果でした。

(2) 各教科の調査結果と今後の対応

ア 小学校（国語）

すべての領域で全国平均を上回っています。様々な学習場面で目的に合わせて資料を選び、伝え方を工夫しながら、自分の考えをまとめて分かりやすく伝える力をもっと高めたいです。また、読書を通じて多様な文章に触れ、言葉との出会いを大切にする指導にも継続して取り組んでいきます。

イ 小学校（算数）

すべての領域で全国平均を上回っており、バランスよく力がついてきています。具体的な場面から立式をする力を高めるために、絵や図を利用して、場面と式を関係づける学習を更に進めていくことが望まれます。導き出した過程や方法を式や言葉を用いて伝え、他者との共通点や相違点に着目させる活動も大切にしていきます。

ウ 中学校（国語）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国平均を上回っています。複数の情報を関係づけ、文章と図、具体的な表現と抽象的な表現などを結びつけながら、読む学習を大切にしていきたいです。また、適切な資料や情報を用いて、根拠を明確にしながら、自分の考えを分かりやすく伝えることにも取り組んでいきます。

エ 中学校（数学）

すべての領域で全国平均を上回っており、「思考・判断・表現」の力は全国平均を大きく上回っています。知識として覚えるだけでなく、覚えた知識を活用する問題にも取り組み、意味づけたり関連づけたりしながら、理解を確実なものにすることが望まれます。更により説明表現にできないかなど、子ども同士の対話を通して深めていくことも大切にしていきます。

(3) 児童生徒質問調査結果から

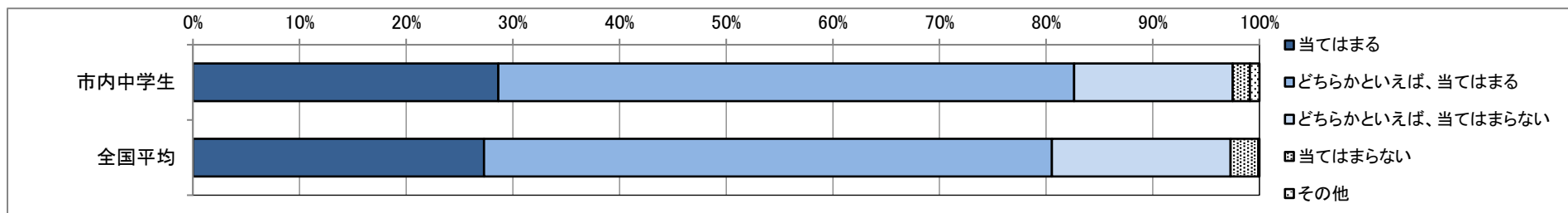
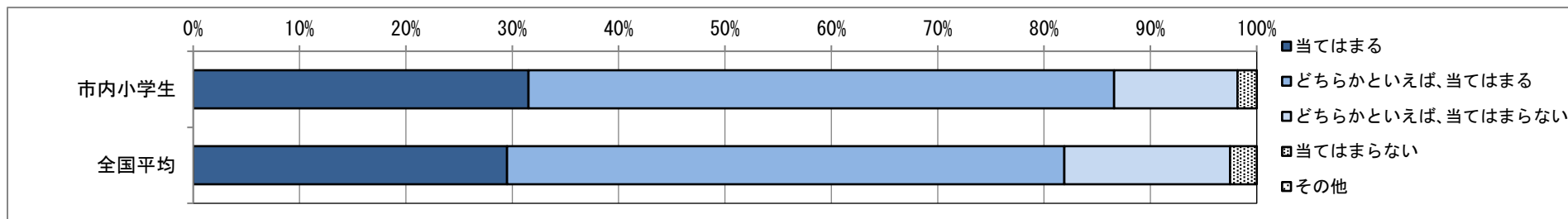
ア 生活に関する観点から

塩尻市の市民運動「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」を踏まえて調査結果をみると、「朝ごはんを食べている」については、「している」「どちらかといえば、している」は小学生と中学生ともに9割以上です。「就寝時刻」については8割以上、「起床時刻」については、9割以上の児童生徒がだいたい決まった時間に寝起きしており、全国より高く、規則正しい生活習慣が定着しています。

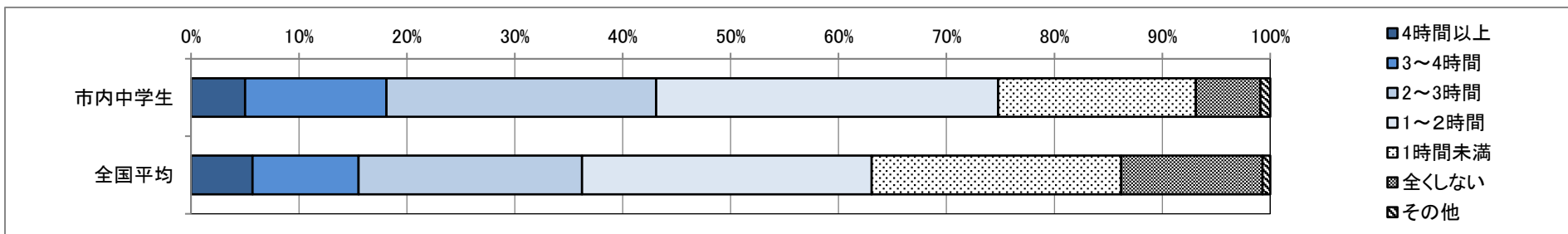
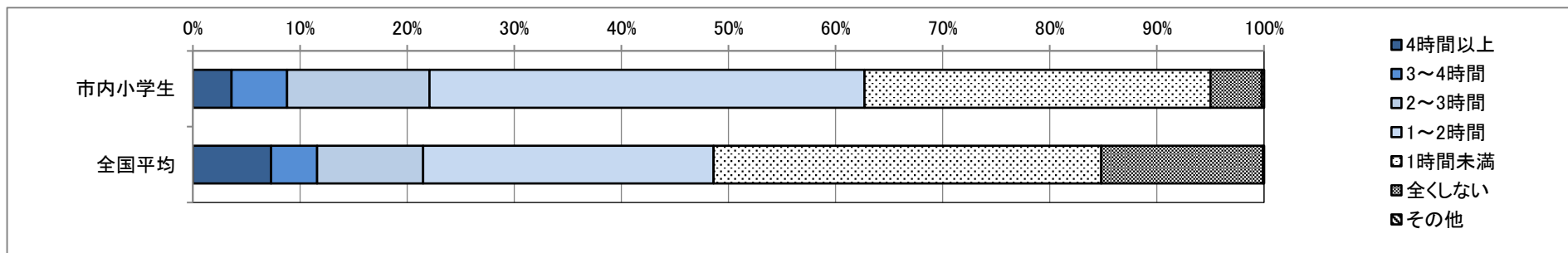
家にある本の冊数を、「26冊以上」で見ると、小学生72%（全国64%）、中学生67%（全国60%）で、全国より高くなっています。また、平日1日当たりのテレビゲームの利用時間を、「3時間以上」で見ると、小学生20%（全国30%）、中学生18%（全国29%）で、全校より低くなっています。全国に比べ家庭にある本の冊数が多く、テレビゲームの利用時間が少ないことから、余暇にテレビゲームだけでなく、読書などにも親しむ環境が家庭にもあることが伺えます。

イ 学習に関する観点から

① 【授業では課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか】 質問番号（小30 中30）



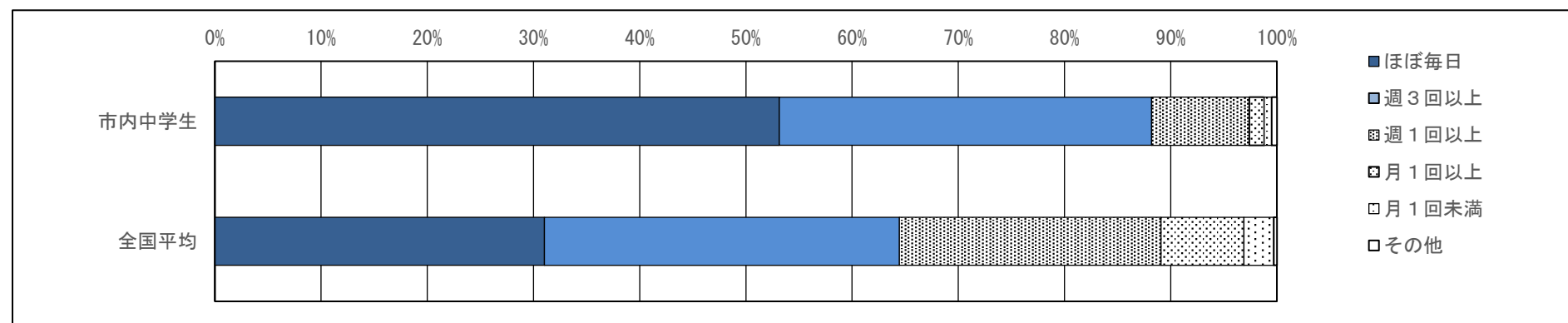
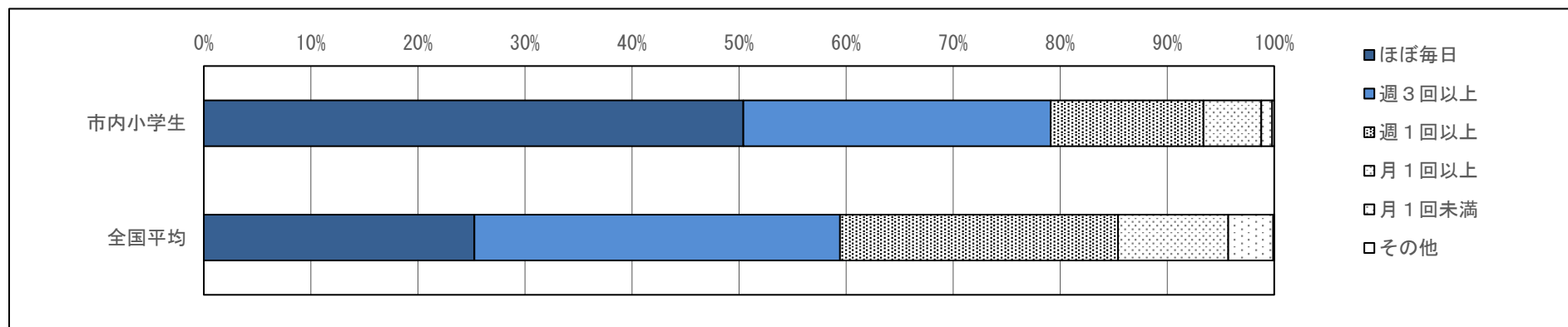
② 【土日・休日の家庭での学習時間】 質問番号（小22 中22）

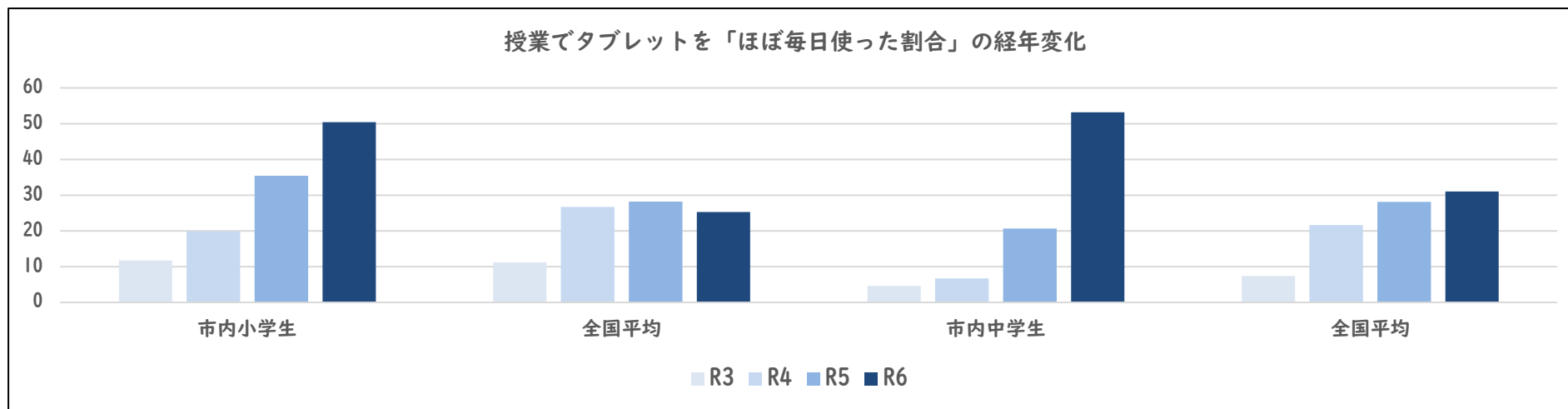


授業での課題に対する主体的な取組については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」が、小学生87%（全国82%）、中学生83%（全国80%）でした。小中学校ともに全国に比べて高く、教師から示される課題や、自分たちで立てた課題に対して、自分から考えて取り組む主体的な姿勢の児童生徒が多いことが分かります。多くの子どもたちに学びに向かう態度が身についてきていることが伺えます。

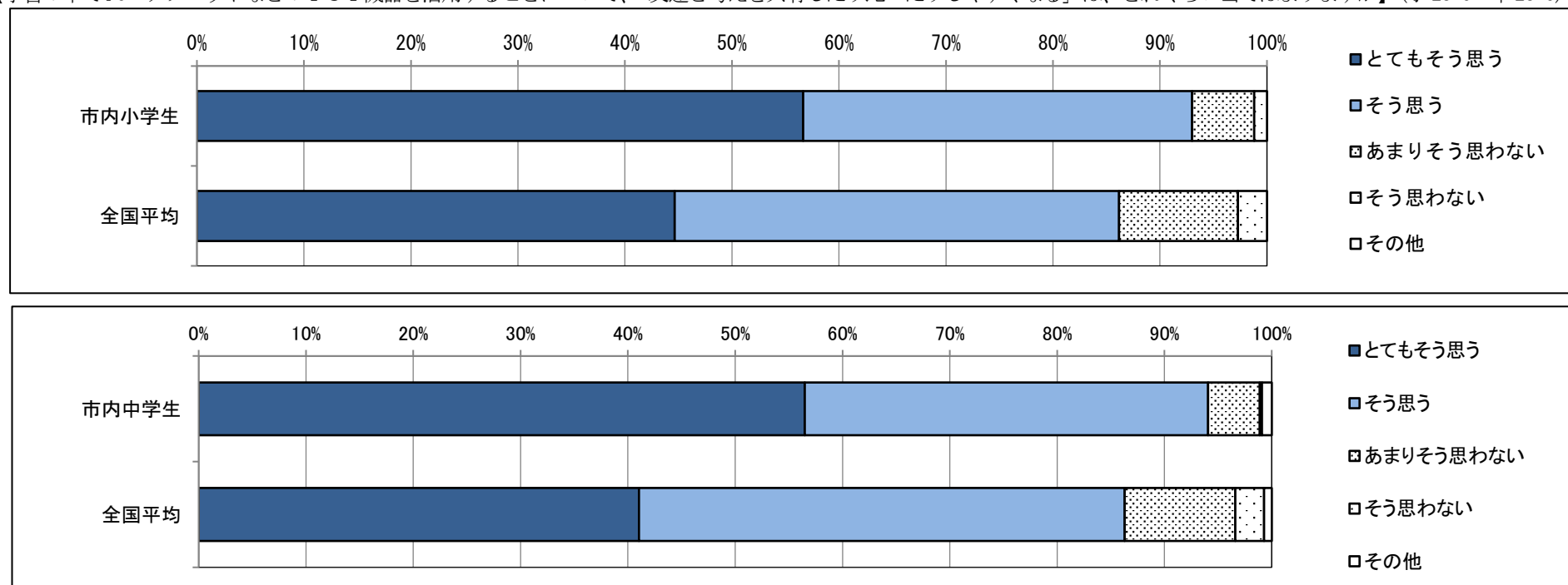
平日の家庭学習の時間は、小中学校ともに1時間から2時間が最も多く、平日の家庭学習1時間以上の児童生徒は、小学生58%（全国55%）、中学生64%（全国64%）でした。土日・休日の家庭学習の時間は、小中学校とも1時間から2時間が最も多く、土日・休日の家庭学習が1時間以上の児童生徒は、小学生63%（全国49%）、中学生75%（全国63%）で、全国より高くなりました。本市の児童生徒は平日より土日・休日の方が、全国より学習に取り組んでおり、家庭でも一定時間学習に取り組んでいます。家庭学習でも個々の主体性な学びを大切にし、タブレット等の効果的な活用も進めながら、家庭学習の充実に向けこれからも取り組んでいきます。

③【授業でPC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか】（小27 中27）





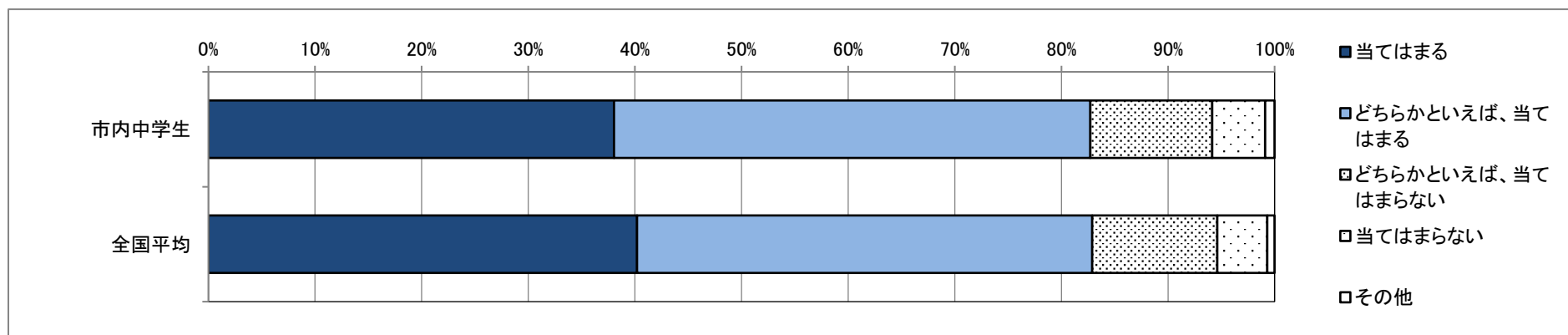
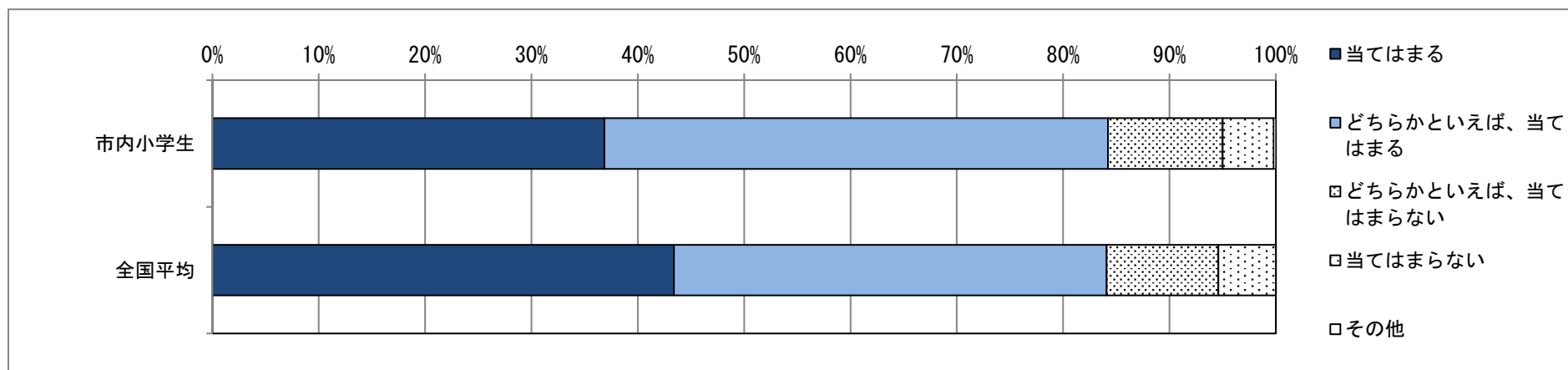
④【学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」は、どれくらい当てはまりますか】(小28-6 中28-6)



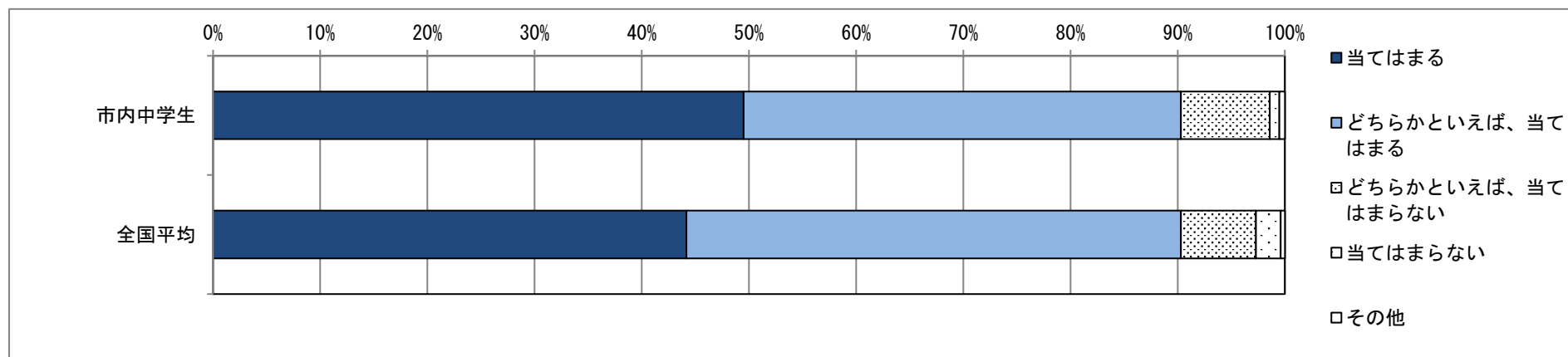
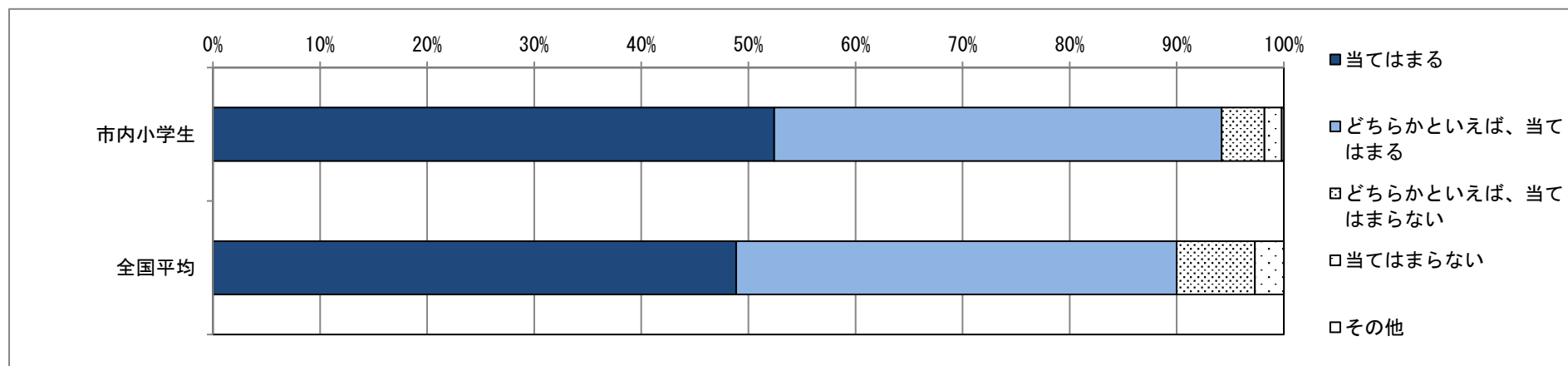
本市でも一人一人にタブレットが配備され、ＩＣＴ機器の活用を進めています。前年度までの授業でタブレット等を「ほぼ毎日」使用した児童生徒は、小学生５０％（全国２５％）、中学生５３％（全国３１％）でした。小中学生とも、タブレット等の使用が全国平均よりかなり高い結果になりました。ＩＣＴを活用することで、「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」に「とてもそう思う」と回答した児童生徒は、小学生５７％（全国４５％）、中学生５６％（全国４１％）でした。また、友達と積極的に考えを共有・比較したと考える児童生徒ほど、国語や算数・数学の正答率がかなり高い傾向もみられました。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、効果的にタブレット等を活用した実践を積み重ねながら、これからもタブレット等の活用を進め授業改善に取り組んでいきます。

ウ 自分自身についての観点から

【自分には、よいところがあると思いますか】 質問番号（小９ 中９）



【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】 質問番号（小10 中10）



自分にはよいところがありますかの質問については、「当てはまる」「どちらかという」と答えた児童生徒の割合は、小学校84%（全国84%）、中学校83%（全国83%）で、小中ともに全国と同じ結果になりました。多くの児童生徒が自己肯定感を高めながら、前向きに生活をしていることが伺えます。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問については、「当てはまる」「どちらかという」と答えた児童生徒の割合は、小中学生とも9割以上でした。教職員は児童生徒のよいところを認めながら、多くの児童生徒が前向きに学校生活をしていることが伺えます。今後も児童生徒のよいところに目を向け、認め励ますことを大切にしていきたいと思います。家庭や地域でも、様々な場面で子どもたちの主体性を大切に、共に喜び、認め励まし合いながら生活できるよう支援をお願いします。

4 学校に関する質問紙調査結果から

(1) 教科指導 ☆数値(%)は、「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の中で「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計の割合

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号(小34 中34)〉 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	88.9%	100%
	全国平均 87.4%	全国平均 86.6%

ア 本市の小中学校では児童生徒が課題をもって取り組む授業が行われています。児童生徒への質問でも「授業では、課題解決に向けて、自分で考え自分から取り組んでいますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の合計は、小中学校ともに80%を越え、学びに向かう姿勢が多くの子どもたちに育ってきています。さらに、そう考える児童生徒ほど、国語、算数・数学の正答率が高い傾向が見られました。

また、上の結果からも市内のほとんどの小中学校で、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や工夫を行っていることが伺えます。これからも授業研究会や学力向上に向けた研修などを重ねながら、将来、生きて働く児童生徒の資質・能力が高められるように、学びのプロセスを大切にしながら日々の授業改善に、本市のすべての小中学校で取り組んでいきます。

☆数値(%)は、「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の中で「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計の割合

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号(小67 中71)〉 学校の教員は特別支援教育について理解し、授業の中で児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫など)を行いましたか	100%	100%
	全国平均 94.9%	全国平均 94.0%

イ 児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を、市内すべての小中学校で行っていることが伺えます。塩尻市では各校で行われている研修に加え、市内小中学校の全教職員を対象とした特別支援教育に関わる研修を毎年夏休みに開催して児童生徒への理解を深め、より適切な支援ができるように研修を行っています。特別支援教育では個別の指導計画をもとに、より適切な支援を行っていくことが求められています。個に応じた適切な支援とともに、学校におけるユニバーサルデザイン化も更に進めていきます。これからは教職員が研修を重ねて特別支援教育について理解を深め、個に応じた適切な支援を行っていきます。また、多様な児童生徒に対応できるように研修を深め、チームによる支援体制を築きながら支援を進めていきます。

(2) 教育課程の編成 ☆数値 (%) は、「よくしている」「どちらかといえばしている」「あまりしていない」「全くしていない」の中で「よくしている」の割合

項 目	小学校	中学校
<学校質問番号(小13 中13)> 子どもの姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	55.6%	66.7%
	全国平均 40.4%	全国平均 40.5%
項 目	小学校	中学校
<学校質問番号(小14 中14)> 指導計画作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	66.7%	100.0%
	全国平均 48.1%	全国平均 36.0%

教育課程の編成においては、子どもの姿や地域の現状等を基に、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校が、小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。PDCAサイクルを確立し、子ども、保護者、職員、地域の方による学校評価や児童生徒による授業評価などを適切に行いながら改善を図り、よりよい教育課程をこれからも編成していきます。

また、教育活動に必要な人的・物的資源等を地域の協力も得ながら積極的に活用し、これらを効果的に組み合わせて指導計画を作成している学校が小学校、中学校ともに全国平均を上回りました。これからも家庭、地域の方の協力をいただきながら、コミュニティ・スクールの活動にも力を入れ、地域に開かれた教育課程を編成し、教育活動を展開していきます。

(3) 地域との連携 ☆数値 (%) は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」「取組を行わなかった」の中で「そう思う」の割合

項 目	小学校	中学校
<学校質問番号(小70 中74)> コミュニティ・スクールや地域学校協議会等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	88.9%	66.7%
	全国平均 36.7%	全国平均 28.6%

コロナ禍の中で活動を自粛していたコミュニティ・スクールの取組が徐々に復活し、学校、地域、保護者と連携した活動が行われています。それに伴い、相互理解も深まり、地域に開かれた学校づくりが進められています。コミュニティ・スクールを立ち上げている本市は、学校と地域や保護者の相互理解において、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回る結果になっています。保護者や地域の方による学校の環境整備、登下校の見守り、学習や部活動への支援、学校行事への参加なども復活し、保護者や地域の方に温かく見守られながら、子どもたちは諸活動に取り組んでいます。また、中学校の部活動の地域移行に関わる取組も始まりました。保護者・地域の方の理解と協力をいただきながら、地域の方に支えられたスポーツ・文化活動を共に進めていきます。

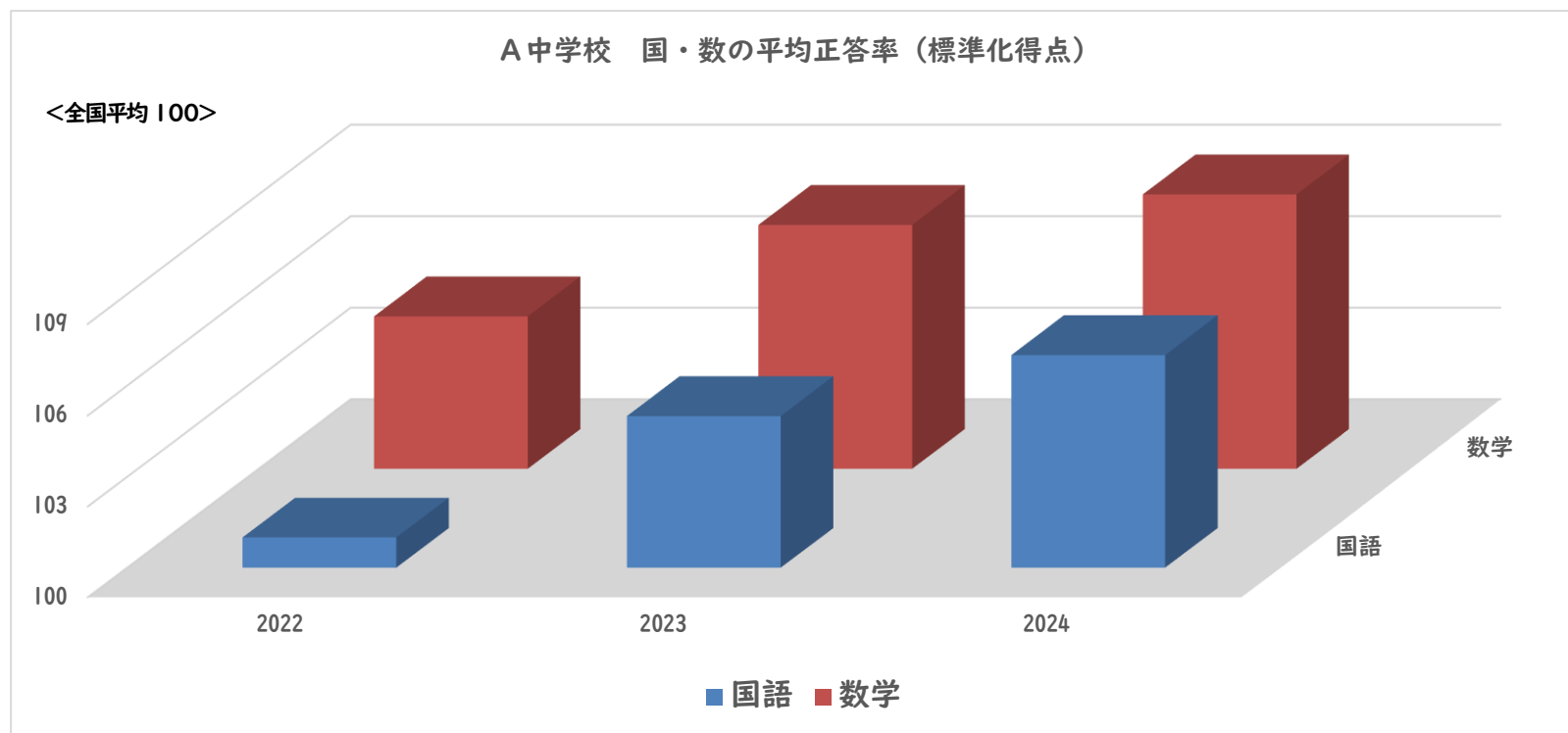
(4) タブレットなどのＩＣＴ機器の活用 ☆数値（％）は、「ある」「どちらかといえば、ある」「どちらかといえば、ない」「ない」の中で「ある」の割合

項 目	小学校	中学校
〈学校質問番号（小 54 中 58）〉	100％	83.3％
教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	全国平均 60.5％	全国平均 52.0％

本市では、教職員向けの授業におけるＩＣＴ機器の効果的な活用についての研修の充実に力を入れてきました。また、15名程のＧＩＧＡスクール・サポーター（ＩＣＴ支援員）を配置して、ＩＣＴ機器の活用に関する各校へのサポートの充実に努めており、「コンピュータなどのＩＣＴ機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか」の質問で、「そう思う」は、小学校89％（全国39％）、中学校83％（全国35％）と全国よりも高い結果でした。その結果、児童生徒質問調査でも、授業でタブレットなどを「ほぼ毎日」使用した児童生徒は、小学校50％（昨年度35％）、中学校53％（昨年度21％）と、利用が進んできていることが分かりました。また、本年度から始めたＩＣＴ活用推進アドバイザー事業にも、各校から26名の教職員が参加して、それぞれの学校でＩＣＴ機器を効果的に活用した授業改善をリードしています。

市内の小中学校ではタブレットを用いた個に応じた支援も始めており、特別な支援を必要とする児童へのタブレット等を活用した支援をほぼ毎日行っている小学校は44％（全国32％）、不登校生徒に対する学習活動等の支援をほぼ毎日行っている中学校は40％（全国27％）と全国より高い結果になりました。今後更に授業の中での調べる学習、自分の考えをまとめ発表する学習、子ども同士がやり取りする学習などにも積極的にタブレット等を用い、「対話的な学び」での効果的な活用を進めてまいります。家庭においても、タブレットの自宅への持ち帰りを進め、タブレットを用いた家庭学習に取り組んでいくと共に、情報モラル教育にも力を入れて取り組んでいきます。

5 学力向上に向けたA中学校の取組



A中学校の全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率は上のグラフ（標準化得点）のように、ここ数年は全国平均を上回り、安定した力をつけてきています。この中学校は、どのような取組で成果を上げているのでしょうか。

（1）授業づくり ～全ての授業で『今日はこれ』を提示～

A中学校では、全ての授業で「今日はこれ」を提示して、授業を行っています。生徒の疑問や興味・関心などから、『今日はこれ』という全校共通の言葉を使い、各授業の学習問題や学習課題、ポイントなどを据えて、授業を進めています。生徒たちが授業のはじめの段階で「今日は何を学び、何を追究するか」などを意識して授業に取り組めるようにしています。生徒たちが『今日はこれ』を意識することにより、1時間の授業の見通しとめあてをもって意欲的に学習に参加できるように全校で統一して進めています。「授業づくり」主任のB先生は、先生方向けに「授業づくり」の模擬授業を実施し、教職員間の意識の統一を図っています。このように、教科を超えた授業の方向性を持つことで、生徒たちはA中学校の共通する授業の流れの中で、自ら学ぶ姿勢を身につけながら学習に対する自己調整力も高めています。さらに、教職員の授業の進め方に対する意識の統一が図られ、指導の質の向上につながっています。これらのことがA中学校のここ数年の安定した学力につながっていると考えられます。

(2) 4人グループを基本とした「協働的な学び」の取組

A中学校では、授業における生徒同士の「協働的な学び」を促進するため、グループ学習では4人を基本としたグループを編制しています。これは、互いの意見を交換し、協力して問題を解決するプロセスを重視するための取組です。4人程度のグループは、全員が発言しやすく積極的に参加できる環境を提供しやすい、適度な人数と言われています。6人以上のグループになると発言機会が偏りがちになるため、4人程度のグループが最も効果的と考えられています。

A中学校では各授業で問題解決の過程等をグループで共有できるように、解決方法や考え方を話し合う場を積極的に設けています。これにより、グループ内での自然な「交流」が促進され、学習の深まりが期待されます。また、教職員はその様子を机間指導しながら観察し、生徒たちの理解度を確認したり把握したりして、適切なフィードバックを行っています。例えば、理科の授業では、実験結果を共有し、課題解決に向けてのディスカッションを行うことで、友だちの視点からも新たな学びを得る機会が生まれています。こうした協働的な学びの機会が、結果として生徒同士の信頼関係を深め、学級集団としてのまとまりも強化しています。



【グループ学習の様子】

(3) 学級づくり ～朝活動を利用して～

A中学校の校長先生は「授業づくり」と「学級づくり」を学校における実践研究の2本柱に据え、「交流」をキーワードにしながら学校づくりを進めています。「学級づくり」は、全ての教育活動の基盤となる重要な要素です。A中学校では、生徒が安心して学び、成長できる環境を整えるために、全教職員が協力して学級経営に取り組んでいます。授業にグループ学習を積極的に取り入れることに加えて、朝活動を利用した「学級づくり」の時間を設定し、生徒同士の「交流」を通して信頼関係の構築を図っています。隔週木曜日に行われるこの朝活動では、短時間で取り組めるゲームやレクリエーションを通じて、生徒同士が自然にコミュニケーションを取り、互いの存在を認め合うことを重視しています。これらの取組により、生徒同士の理解や協力が深まり、学級全体の連帯感が強化されています。また、「学級づくり」主任のC先生は、「研究通信～学級づくり編～」を作成し、全教職員で共有しています。学級担任も教科担任も学級づくりが全ての教育活動の基盤という考えをもちながら、生徒たちが安心して学び、生活できる学級集団づくりを学級活動や教科の授業などを通して進めています。



研究通信～学級づくり編～

2024年4月17日(水)
塩尻市立A中学校
学級づくり主任 ○○

毎週木曜日は「学級づくり」の時間です！！

いよいよ朝活動で「学級づくり」が始まります。**困ったらアドジャン！！**で間違いありません。校長先生からのお話のとおりです！面倒だからやらない・・・なんてことがないように、先ずは取り組んでみてください。

新しい集団だからこそ非常に効果が出ます！！よろしくお願いします。さ～て明日は！！

【手始めにバースデーチェーンを！！】

バースデーチェーンのルール



【学級づくりの研究通信】

(4) 多様な学びへの対応

A中学校では教職員でアイデアを出し合い、個性や特性に応じた多様な学びへの対応を進めています。タブレットを使って自宅と家庭をオンラインで結び、自宅にいる生徒と教職員が毎日交流したり、希望者には学級での授業を配信したりしています。また、個に応じた支援の充実に向け、チーム支援体制をつくり、生徒一人ひとりの実態を適切に把握して、本人や保護者の夢や希望、意向を大切にしながら個別の指導計画を作成し、全教職員で共有しながらチームによる支援を進めています。「誰一人取り残さない」を合言葉に、生徒一人ひとりが安心して自らの学びを進められる学習環境づくりに取り組んでいます。

(5) 家庭学習の充実

家庭学習の充実、生徒の学力向上に不可欠な要素です。A中学校では、授業内容と連動した課題を通して、家庭学習の質を高める取組を行っています。例えば、各教科で授業の復習や発展的な課題を設定し、生徒が家庭で主体的に学習を進められるよう支援しています。テスト前には学習計画表を活用し、自分自身の学習進度を確認しながら、効率的に学習を進める方法を指導しています。

また、優れた家庭学習ノートの紹介や、自由学習の推奨を通じて、生徒が自分の興味をもった学習や必要に応じた学習に取り組む姿勢を育成しています。これにより、生徒は自己調整力を高めたり、自分の弱点や得意分野を把握したりしながら、効果的に学習を進めようと頑張っています。家庭学習と授業の連動性を強化することで、学力の向上だけでなく、生徒の自主性や学びの意欲も高めています。

(6) ICT機器活用の環境を整える

A中学校では、ICT機器の効果的な活用を進めるための環境整備に力を入れています。全教室にタブレット端末を導入し、デジタル教科書や学習アプリの活用を通して、生徒の学習を支援しています。また、ICT機器を用いた授業は、視覚的な情報提示や個々のペースに応じた学習支援を可能にし、生徒の理解力の向上に大きく役立っています。特に、ロイロノートなどのアプリを使用した協働学習では、グループ内での情報共有や意見交換が容易になり、深い学びにつながっています。

さらに、A中学校では教職員向けのICT研修を定期的に実施し、教員のスキル向上を図っています。この研修により、教員は教育ツールを効果的に活用し、授業の質の向上をめざしています。また、ICT機器の活用はあくまで学びの手段であり、その目的を明確にすることが重要です。A中学校では、授業の目的に応じてICTを活用しつつ、アナログの良さも取り入れたバランスの良い指導を行っています。このような取組により、ICT機器の効果的な活用が生徒の学力向上に大きく貢献しています。

これらの取組を通して、A中学校は全国学力・学習状況調査において全国平均を上回る安定した成果をあげています。今後も交流を中心に据えた授業づくりや学級づくりを進め、生徒一人ひとりの豊かな学びを支えていこうとしています。

6 市内小中学校の今後の取組

(1) 塩尻市の重点施策を活かした生活の基盤づくり

塩尻市が推進している「早ね 早おき 朝ごはん・どくしょ」の市民運動に基づく様々な取組が行われ、市内の子どもたちに規則正しい生活や読書の習慣が身につく、そのことが安定した学力の定着につながっています。小学校国語の読書に関わる問題の正答率も高く、成果がでています。今後も子どもたちが、家族の一員として家庭での役割を果たしながら、バランスよく学習や読書、運動や遊びを行う中で、社会的自立に向けた生活ができるように、保護者と協力して家庭生活の充実に取り組んでいきます。

(2) 多様な学びに応える不登校対応と「元気っ子応援事業」を核にした個に応じた支援

明るく楽しい学校・学級づくりを進めるとともに、子どもや保護者の声に耳を傾け、チームによる多様な学びに応える不登校対応を進めていきます。市教育支援センターを中心に、子どもたちのニーズに沿いながら、eスポーツや幼児との交流などの活動を児童館などの関係機関や民間施設等と連携して進めていきます。誰一人取り残さない魅力ある学校づくりを進めるとともに、市内小中学校、市教育委員会、関係機関、民間施設等が連携して、一人ひとりの子どもや保護者に寄り添った支援を今後も進めてまいります。

また、一人ひとりの育ちを応援していく「元気っ子応援事業」を今後も推進し、授業のユニバーサルデザイン化の推進やインクルーシブ教育に力を入れ、子どもたちの個性や特性に応じた指導の工夫に取り組んでいきます。自尊感情を育み、子どもたちの育ちに丁寧に向き合いながら、チーム支援体制の改善を図り、個に応じた支援の更なる質の向上を目指します。

(3) 教員の指導力向上と授業改善

- ア 授業のはじめに子どもたちが自ら「ねらい」や「めあて」をもち、個人的な追究とグループやクラスでの協働的な追究を通して、課題を解決したり目標を達成したりできる授業を展開していきます。授業のおわりには「ポイントに沿った振り返り」をきちんと位置づけるようにし、子どもの学びのプロセスに沿った、一人ひとりが主体的に学べる授業を進めていきます。また、一人ひとりに配備したタブレットを効果的に活用する授業も進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、どの教室でもこれからの時代を生きていくための力が身につくように、授業改善に取り組みます。
- イ 本年度の全国学力・学習状況調査の国語と算数・数学の問題を見ても、情報活用力やコミュニケーション力、課題解決力などが求められています。国語や算数・数学の授業だけでなく、すべての教科や教育活動等を通して、それぞれの教科の特性などを活かしながら「これからの時代に生きて働く力」や「学びに向かう力」をつけていきます。また、教科横断的な活動が可能な教育課程の編成も進めていきます。
- ウ 教科学習をはじめとした教育活動の中で「自分たちで課題を見つけ、その解決に向けて情報を集め、グループやクラスで話し合いながら探究し、まとめ、発表する」ことを通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」の力をバランスよくつけていきます。また、子どもたちの興味・関心・意欲に沿いながら「人・もの・こと」との関わりを大切にしたい五感で実感できる体験的活動やキャリア教育の充実に努めます。
- エ 学力向上や学級づくりのために、少人数学習やチームティーチング、小学校の教科担任制など効果的な指導法について研究をしていきます。また、幼保小中の連携を更に進めていきます。

(4) 地域の人的・物的資源を活かした教育活動の充実

コロナ禍前のように、コミュニティ・スクールを生かした教育活動が活発に行われるようになってきました。学校支援コーディネーターとの連携を密にし、子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるため、「体験的な活動」や、自らの将来を考える「キャリア教育」を更に充実させていきます。地域の方の協力を得ながら地域の人的・物的環境を生かした教育活動を展開していきます。

(5) 幼保小の連携と小中9年間を見通した指導内容・方法の研究

幼保小では子どもたちの交流を中心に据えながら連携を進めています。幼保小それぞれの具体的な指導法や子どもたちの様子などを共有し、小学校での生活に円滑に移行できるように幼保小の連携の充実に取り組みます。小学校低学年でも「遊びを通した学び」に積極的に取り組み、各教科等の学習と繋げていけるように努めます。小中の連携では、英語教育推進委員会を設置し、中学校区ごとに小学校と中学校の教職員が互いに授業を見合い、学び合いながら9年間を見通した英語教育の在り方について研究を深めています。今後更に、小中学校の他の教科指導や生徒指導においても、中学校区ごとに小中連携を図り、各校の教育目標を共有しながら、児童生徒理解を深め、9年間の系統的な指導内容・方法についての研究を進めて、一貫性のある教育の推進に努めていきます。